

サクセスキクイムシの発生について

県南東部において、なしの果実に侵入痕が生じる被害が発生し、その内部に見られた体長2mm程度の甲虫を同定した結果、サクセスキクイムシであることが判明した。

* 特殊報：新規の有害動植物を発見した場合及び重要な有害動植物の発消長に特異な現象が認められた場合に発表するものです。

1 害虫名 サクセスキクイムシ *Xyleborinus saxeseni* (Ratzeburg)

2 対象作物 なし

3 発生経過

- (1) 令和3年8月下旬に、県南東部において、なしの果実に直径1mm程度の小さな穴を生じる被害が確認された。その内部から体長2mm程度の甲虫を採取し横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、サクセスキクイムシであることが判明した。
- (2) 本種によるなし果実被害について栃木県、愛知県など7県で特殊報が発表されている。

4 本種の特徴及び生態

- (1) 雌成虫の体長は2mm程度、細長い円筒形で、光沢のある黒褐色である(写真1)。
- (2) 年1~2回発生し成虫態で樹内越冬し、4~5月に脱出して樹勢の弱い衰弱した樹の枝幹に穿孔する。孔道は直径約0.7mmで、そこから粉状の細かい木屑(フラス)を排出する。
- (3) なしの果実への被害は、成虫が果実へ穿孔し被害果を生じる(写真2~4)。被害果は日数の経過とともに穿孔部分を中心に腐敗し、一様に褐変する。
- (4) 寄主範囲は広く、各種針葉樹、広葉樹に寄生する。果樹類では、なし、りんご、もも、かき、くり、キウイフルーツの枝幹部への穿孔被害が確認されている。



写真1 成虫



写真2 果実への穿孔(なしのていあ部)



写真3 果実への穿孔(フラスを除いた様子)



写真4 被害果の断面

5 防除対策

- (1) 樹勢の衰えた樹は加害されやすいので、適正な肥培管理等により樹勢の維持、回復に努める。
- (2) 衰弱の激しい樹は伐採し、せん定した枝幹も含めて適切に処分する。
- (3) 被害果を確認した場合は、周辺の幹枝でも穿孔被害が発生している可能性が高いので、木屑(フラス)を目印にして被害樹がないかよく園内を観察する。
- (4) 被害樹を確認した場合は薬剤による防除を行う。

表 なしのキクイムシ類の防除薬剤

薬剤名	IRACコード	使用時期	使用方法	使用回数
トラサイドA乳剤	1B	4～7月 但し収穫21日前まで	樹幹部に十分散布	5回以内

(登録情報は令和3年10月29日現在)